

# 中小企業景況調査報告書

令和6年10～12月期 実績  
令和7年 1～3月期 見通し






## 始良市商工会

(令和7年1月発行)

この調査は、始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

























この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

### 〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	--	--

- 調査対象期間 令和6年10～12月期を対象とし、調査時点は令和6年12月1日とした。  
令和7年1～3月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 始良市商工会
- 回答企業 対象企業 30企業（※始良市30企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数と理解下さい。）  
製造業：7企業 建設業：7企業 小売業：8企業 サービス業：8企業

### 県内産業別業況DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
対前年 同月比	5年 10月～12月期		▲4.6		23.3		▲19.3		▲4.1
	6年 1月～3月期		▲2.2		6.7		▲23.2		▲7.8
	6年 4月～6月期		▲9.1		7.2		▲27.6		▲2.5
	6年 7月～9月期		▲16.7		▲7.4		▲19.0		▲19.5
	6年 10月～12月期		▲9.3		11.1		▲25.9		▲11.5
	来期見通し(1～3月期)		0.0		11.1		▲24.0		▲11.5

### 総合(業況)

前年同期（令和5年10月～12月期）と比較した今期（令和6年10月～12月期）の業況は、製造業▲9.3（前年同期比4.7ポイント悪化）、建設業11.1（前年同期比12.2ポイント悪化）、小売業▲25.9（前年同期比6.6ポイント悪化）、サービス業▲11.5（前年同期比7.4ポイント悪化）となった。

今期については、前年同期と比較すると、原材料の価格高騰に加え、最低賃金アップによる人件費の増加等もあり全業種、悪化となった。また前期（令和6年7月～9月期）と比較すると、製造業7.4ポイント改善、建設業18.5ポイント改善、小売業6.9ポイント悪化、サービス業8.0ポイント改善となった。小売業を除いては改善となっているものの、酷暑による野菜の高騰や人件費の増加もあり予断を許さない状況である。なお、来期（令和7年1月～3月期）の見通し（DI）は、今期と比較すると、製造業9.3ポイント改善、小売業1.9ポイント改善、建設業とサービス業は横ばいの見通しとなり、今期と比較的に変わりない状況と予想されるが、引き続き人件費増の影響と、補助金の削減

によるガソリンの高騰により経費増に影響があると懸念され、消費者にとっても中小企業・小規模事業者にとっても厳しい状況が続くと思われる。

## 業種別景気動向

### 【製造業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：食料品(2)，窯業(1)，衣類(1)，家具(1)，印刷(1)，ガラス製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値
5年 10月～12月期		14.3		28.6		28.6		14.3
6年 1月～3月期		14.3		28.6		0.0		28.6
6年 4月～6月期		▲14.3		0.0		▲14.3		0.0
6年 7月～9月期		▲28.6		▲14.3		▲28.6		0.0
6年 10月～12月期		▲14.3		▲14.3		0.0		▲14.3
来期見通し(1～3月期)		0.0		0.0		0.0		▲14.3

#### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・万博の影響もあり、いまだに納期のかかる商品があり、受注しても納品までに3ヶ月以上かかるなどの問題を抱える企業もある。

#### <経営上の問題点>

- ・原材料価格の上昇を問題視している事業所が多く、原材料の不足や人件費の増加等も経営上の問題と感じている事業所が多いようである。
- ・生産設備の不足・老朽化を問題視している事業所もある。

### 【建設業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)，設備工事業(1)，職別工事業(4)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値
5年 10月～12月期		▲14.3		0.0		▲14.3		▲14.3
6年 1月～3月期		57.1		14.3		14.3		14.3
6年 4月～6月期		▲14.3		▲14.3		▲14.3		▲28.6
6年 7月～9月期		▲14.3		0.0		▲14.3		▲14.3
6年 10月～12月期		0.0		14.3		▲14.3		0.0
来期見通し(1～3月期)		0.0		0.0		0.0		14.3

#### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・短期の仕事が多く、先の見通しができない。建設業以外の事業にも参入して、多角経営をはじめたが、まだ軌道に乗り切れていない。材料費が上昇し続けている今、材料は少なくとも他にない技術取得が必要と感じている。
- ・仕事は増加しているが、人員不足・経験不足で工期が遅れることが多々あり、外注を依頼する現場が昨年と比較しても増加している。どの企業も人員不足であるとのことで、人員確保と経験値をあげることが課題である。

#### <経営上の問題点>

- ・材料価格の上昇が最も多い課題である。
- ・従業員の確保難や熟練技術者の確保難を問題視している企業も多く、人員と技術を求めているようである。

## 【小売業】 有効回答数 8企業

調査対象企業内訳：飲食料品(4)、衣服(1)、各種商品(1)、その他(2)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	天気	金額	天気	金額	天気	金額	天気	金額
5年 10月～12月期		▲50.0		▲37.5		▲25.0		▲37.5
6年 1月～3月期		▲50.0		▲37.5		▲25.0		▲37.5
6年 4月～6月期		▲50.0		▲25.0		▲12.5		▲50.0
6年 7月～9月期		▲62.5		▲25.0		▲62.5		▲62.5
<b>6年 10月～12月期</b>		<b>▲75.0</b>		<b>▲25.0</b>		<b>▲75.0</b>		<b>▲75.0</b>
来期見通し(1～3月期)		▲37.5		▲12.5		▲50.0		▲50.0

### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・顧客ニーズに対応できるようにすることが課題だとする企業もある。

### <経営上の問題点>

- ・消費者ニーズが変化してきており、その変化への対応がしきれていないと感じている企業が多いようである。
- ・仕入れ単価の上昇も問題視しており、購買力の他地域への流出等も課題のようである。

## 【サービス業】 有効回答数 8企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)・理美容業(3)、飲食店(2)、その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	天気	金額	天気	金額	天気	金額	天気	金額
5年 10月～12月期		25.0		25.0		0.0		25.0
6年 1月～3月期		25.0		0.0		▲12.5		12.5
6年 4月～6月期		0.0		▲37.5		▲12.5		12.5
6年 7月～9月期		25.0		▲12.5		12.5		12.5
<b>6年 10月～12月期</b>		<b>37.5</b>		<b>▲12.5</b>		<b>▲12.5</b>		<b>25.0</b>
来期見通し(1～3月期)		12.5		0.0		▲37.5		12.5

### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・顧客が戻ってきた気がする。より良い商品を提供する準備が必要である。
- ・賃金の上昇に伴い、働く時間が減り、経営者に大きな負担になってきている。
- ・仕入れ単価も上がり、その分を商品に反映し薄利多売をやめ、適正価格にする試みを実施。前年と比較し、営業日を減らすことで、一月の来客数は減少したが、単価を上げた分、売上が伸びている。
- ・仕入単価は上昇し、商品価格の値上げは簡単にはいかず、利益が出ないため、経営が難しくなっている。一定期間、補助対策をして頂きたい。

### <経営上の問題点>

- ・材料等仕入単価の上昇も問題視している事業所が多いようである。
- ・従業員の確保を求めているが、人件費の増加の課題がある事業所も多いようである。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、緩やかに回復している。観光は、緩やかに回復している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、大幅に増加している。生産は、弱めの動きとなっている。

企業部門の動向を短観（12月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）で見ると、設備投資は、高水準で推移している。

雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額と家電販売額は、前年を下回った。乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を上回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数は、前年を下回って推移している。主要観光施設入場者数は、前年を上回って推移している。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を上回って推移している。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年を上回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、食料品、非鉄金属・金属製品を中心に前月を下回った。

6. 雇用・所得環境

有効求人倍率（季節調整済）は、横ばいとなった。

現金給与総額は、前年を上回って推移している。

常用労働者数は、前年を上回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回って推移している。

8. 金融面

預金は、前年を下回った。貸出金は、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、前月を上回った。

企業倒産件数は、前年を上回った。